

令和7年度 学校教育自己診断の結果と分析

泉尾工業高等学校

【生徒】

「工業に関する知識・技術の習得」 91.8%→91.7%（高水準で維持）

「体育祭・文化祭の工夫」 77.0%→86.0%（+9.0pt）

「学校行事への積極性」 89.3%→90.2%（高水準）

「学校へ行くのが楽しい」 75.8%→69.3%（▲6.5pt）

「泉尾工業高校に入学して良かった」 78.9%→81.9（+3.0pt）

「家庭で家族とよく話す」 87.5%→82.4%（▲5.1pt）

「家庭学習の習慣」 42.7%→51.6%（改善傾向）

工業に関する知識・技術の習得に対する肯定的評価が引き続き高く、授業内容の理解や質問のしやすさなど、学習面において安定した成果が見られる。また、体育祭や文化祭に関する評価が大きく向上しており、学校行事の工夫や改善が生徒の意欲や主体的な参加につながっていることがうかがえる。教員の指導についても、納得感が高まり、規範意識や友人関係が良好に保たれている点は、本校の教育活動の強みである。一方で、「学校へ行くのが楽しい」と感じる生徒の割合は低下しており、日常の学校生活における充実感や心理的な満足度の向上が課題として挙げられる。家庭学習の習慣は改善傾向にあるものの、家庭での会話やICT活用の効果を実感する割合には減少が見られる。今後は、専門教育の充実を基盤としながら、生徒一人ひとりが安心して学校生活を送れる環境づくりを一層推進していく必要がある。

【保護者】

「授業がわかりやすく楽しい」 73.2%→82.3%（+9.1pt）

「工業の知識・技術が身についた」 87.9%→90.5%（+2.6pt）

「生徒指導方針への共感」 77.9%→81.2%（+3.3pt）

「保護者の相談への適切な対応」 91.6%→92.5%（高水準で上昇）

「いじめへの対応」 92.0%→88.7%（▲3.3pt）

「厳しい指導」 90.8%→87.9%（▲2.9pt）

「家庭学習の習慣」 46.8%→55.1%（+8.3pt）

「ホームページをよく見る」 47.3%→55.7%（+8.4pt）

「家庭でよく話をする」 97.3%→89.7%（▲7.6pt）

工業に関する知識・技術の習得や授業のわかりやすさに対する評価が大きく向上しており、専門教育の成果が家庭からも実感されていることがうかがえる。また、生徒指導の方針や保護者からの相談対応については高い評価を維持しており、学校への一定の信頼が確保されている。一方で、子どもが学校へ行くことを楽しみにしている割合や、友人関係に関する肯定的評価は低下しており、生徒の学校生活の充実が課題が見られる。家庭学習の習慣や学校

ホームページの閲覧は改善傾向にあるが、家庭での会話の減少は懸念される点である。今後は、専門性の高い教育をさらに充実させるとともに、日常の学校生活の様子や取組を丁寧に発信し、家庭と連携しながら生徒の成長を支えていくことが重要である。

【教職員】

「カウンセリングマインドを取り入れた指導」 77.4%→75.8% (▲1.6pt)

「教育相談体制の充実」 86.2%→82.4% (▲3.8pt)

「いじめ対応体制」 86.7%→90.6% (+3.9pt)

「問題行動への組織的対応」 86.6%→88.3% (+1.7pt)

「教職員の意見が学校運営に反映」 79.3%→87.9% (+8.6pt)

「教育活動について日常的に話し合っている」 90.3%→85.3% (▲5.0pt)

「評価を次年度計画に生かしている」 86.6%→85.3% (▲1.3pt)

いじめや問題行動への組織的対応、家庭との連携、キャリア教育の充実など、学校としての対応力が向上していることが確認できる。また、学校運営に教職員の意見が反映されているとの評価が高まり、参画意識の向上も見られる。一方で、教育活動について日常的に話し合う機会や、人権課題・生徒理解に関する協議、カウンセリングマインドを生かした指導については、肯定的評価がやや低下している。さらに、分掌や学科・教科間の連携、ホームページを活用した情報発信についても改善の余地がある。今後は、組織的対応の強化を継続しつつ、教職員同士が教育観や課題を共有する対話の場を意識的に確保し、学校全体の一体感と教育の質のさらなる向上を図ることが重要である。

【学習指導】

生徒・保護者双方のアンケートから、本校の学習指導、とりわけ工業に関する専門教育は高く評価されている。生徒は知識・技術の習得や質問しやすい授業環境を肯定的に捉えており、保護者からも「授業がわかりやすく楽しい」「専門性が身についている」との評価が大きく向上している。また、教職員においても教材の精選やキャリア教育の系統的实施に対する意識は高く、家庭学習の習慣が改善している点からも、学習指導の一定の成果がうかがえる。一方で、ICT 活用の効果や授業改善の実感には差が見られ、学びの質をさらに高める工夫が求められている。

○今後の課題

今後は、工業教育の強みを維持・発展させつつ、ICT を活用した授業の目的や効果を生徒が実感できる指導の工夫が必要である。また、授業理解が十分でない生徒への支援や、家庭学習の定着を継続的に促す取組みも重要である。教職員間で授業実践や成果を共有し、学習指導の質を学校全体で高めていく体制づくりが求められる。

【生活指導】

生徒・保護者ともに規範意識や友人関係、教員の指導姿勢に対して概ね高い評価を示してい

る。特に、学校のルール遵守や問題行動・いじめへの組織的対応については、教職員・保護者からの信頼が高い。一方で、生徒・保護者の双方において「学校へ行くのが楽しい」と感じる割合が低下しており、日常の学校生活における満足感や心理的な充実度に課題が見られる。また、相談体制についても一定の評価はあるものの、気軽に相談できる環境が十分に行き届いていない可能性が示唆される。

○今後の課題

今後は、規律ある学校生活を基盤としながら、生徒が安心して過ごせる居場所づくりや人間関係づくりを一層重視する必要がある。カウンセリングマインド[※]を生かした指導や相談体制の周知・活性化を図り、生徒一人ひとりの心情に寄り添う支援を充実させることが求められる。学校生活の楽しさや達成感を高める取組の工夫も重要である。

【学校運営】

学校運営に関して、保護者・教職員から一定の信頼が寄せられており、特に保護者対応や家庭との連携、学校運営への教職員参画意識の向上が評価されている。また、学校行事の改善により、生徒の満足度が大きく向上している点は成果として挙げられる。一方で、教職員間の日常的な協議や人権課題に関する話し合い、分掌・学科間の連携については十分とは言えず、情報発信の在り方についても課題が残る。学校全体としての一体感のさらなる醸成が求められている。

○今後の課題

今後は、学校運営方針や教育活動について教職員間で共有・対話する機会を意識的に確保し、組織としての連携を強化することが重要である。また、ホームページ等を活用した情報発信を工夫し、学校の取組や成果を分かりやすく保護者・地域に伝えていく必要がある。開かれた学校づくりを通して、信頼と協働をさらに深めていきたい。